

環境検討部会（第5回）議事概要

- 17. 日 時：平成30年7月2日（月）10：00～11：30
- 18. 場 所：思川西部土地改良区 会議室
- 19. 出席者：別紙のとおり
- 20. 議事概要

本部会で検討した内容は、（1）今後進めていく事項、（2）今後検討・確認する事項、（3）継続して取組む事項 の3つに区分されるため、議事概要は3つの項目に分けて整理する。

（1）今後進めていく事項 （委員）

・平成30年度において改修工事を予定している施設及び区間（荒川排水機場：1ヶ所、新荒川排水路の下流区間：L=800m、新荒川排水路の環境配慮施設（ワンド）；1ヶ所）について異存はない。

（委員）

・新荒川排水路の改修計画として、水路幅は既設水路の約1.3～1.5倍とすること、曲線部の半径を極力緩やかにすること、護岸は粗面の積みブロックを採用し、護岸の法勾配は現況と概ね同様（5分）とすることについて異存はない。
・また、一般区間全線において、ふとんかごを設置できないかという意見に対し、環境配慮施設の整備にあたっては、効果検証が可能なよう地点を絞りこみ試験的に実施すること、直線区間では水路断面に影響が及び実現困難と想定されること、曲線区間の余剰地は積極的な環境配慮に利用することとする。

（委員）

・ワンド部の護岸機能（構造安定性）は隔壁と逆T擁壁で確保されていることから、井桁ブロックやふとんかごは生物の生息環境（隠れ場）確保を目的とし設置するものと整理する。
・なお、ふとんかごは、乾湿環境にあると金網の劣化が早まることが懸念され、また、地上部に陸生植物が繁茂し草刈等の手間が発生すると考えられるため、常時水中にある低位部に限定して使用する。

（委員）

・今年度の新荒川排水路の改修区間では、溝切について、試験的に幅（0.15～0.3m）※と深さ（0.1～0.2m）※、埋戻材を変えながら40mに1箇所程度設置すること、あわせて溝切部にはナガエミクリの移植を行うことについて異存はない。なお、※は目安とし、幅、深さは、排水機能及び施工性を確保した上で、より広く又は深くする等の調整を行うこととする。また定着を促進するため、

溝切内の粗面仕上げを検討する。

（委員）

・西清水川排水路及び新荒川排水路と、規模の大きな支線水路（西清水川支線排水路、品川幹線排水路、東清水川排水路）の接続部について、年間を通じて水生生物の水路間の移動が可能なよう合流工を整備し落差を解消する計画であること、形状は玉石付の階段型とすることについて異存はない。

（２）今後検討・確認する事項

（委員）

・ナガエミクリの生息場の保全について、アンダードレーンを活用した対策で効果が期待できない場合も想定し、北陸農政局管内の国営地区事例（湧水箇所における水生植物の再生）などの情報を収集し、次の対策検討にそなえること。

（事務局）

・まずは情報収集を行う。

（委員）

・玉石付階段型の合流工の他地区事例について、玉石の規模、遡上種（実績）を確認する。

（事務局）

・意見を踏まえ確認する。

（委員）

・保全対象種にナマズを加えるか否かについては、今年の夏・秋調査結果を待って決定する。

（委員）

・環境配慮施設の具体的な設置位置、箇所数について、水路全体の計画として整理し、確認する。

（３）継続して取組む事項

（委員）

・保全対象種について、新たにナマズを加えるべきと考える。また、カマツカについても注目して整理し、保全対象種とすべきか検討する。

（事務局）

・保全対象種について、カマツカについても注目して整理し、保全対象種とす

べきか検討する。

（委員）

・水路に対し水が水路外へ出て行くのか、湧水的に水路内へ入ってくるのか、こうした現状を把握するため『観測孔における地下水位調査』の様子をみたい。なお、地下水位観測時には周辺の田んぼにおける水張り状況との関係にも注意すること。

・地下水位が高いところ、低いところ、ざっくりとでもよいのでそうした情報があるとよい。

（委員）

・地下水位観測調査については現在実施中。調査結果の蓄積・整理等ができた段階で提示する

（委員）

・ワンドを1箇所設置し、モニタリングを行い、その結果から最適な対策を検討するといったアプローチが必要。

（事務局）

・新荒川排水路のワンド設置後、継続的に植物の繁茂状況、生き物調査等を実施し、後年度の環境配慮対策（西清水川のワンド計画）にフィードバックする。また、完成後のイメージを地元関係者と形成・共有する。

（委員）

・対策工の形状、施設の維持管理のあり方について、関係土地改良区、多面的機能支払交付金活動組織、地元自治会等への説明会やワークショップを実施し、検討を進めるという方法はよい。

（事務局）

・新荒川排水路のワンド計画について、間中地区でワークショップを実施し、ワンドの位置や形状について意見をもらった。今後、維持管理のあり方等をテーマとしたワークショップを実施する。

（委員）

・落差工については、今後、詳細検討が進み、地点など明らかとなった段階で整理する。

（事務局）

・比較的規模の大きい末端水路との接続部については、連続性に配慮した合流工とする。詳細設計の段階で、遡上の対象魚種や形状など本部会で確認する。

